

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000161		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	たのしい家 八戸ノ里 (ユニット1)		
所在地	東大阪市下小阪4-4-13		
自己評価作成日	平成26年5月18日	評価結果市町村受理日	平成26年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000161-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者に対し「ここが自分の家」と言ってもらえるように親身に親しみを持って暮らしてもらおう。各季節には大きなイベントを開催し季節を感じてもらおうとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「しあわせはいつも自分の心が決める」との理念を掲げ、利用者も職員も笑顔になることがしあわせと考え、敬意を持ち利用者に関わることを基本としながらも、家庭的な雰囲気大切に親しみのある関係づくりを心がけ利用者の第2の家と感じてもらえることを目指しています。普段より利用者の日常生活の写真を撮ることを心がけて、思い出を多く残せるようにすると共に、運営推進会議の際の報告にも利用し参加者や家族に日々の様子を知ってもらえるよう取り組んでいます。管理者をはじめ職員間の連携がよく、何でも話できるような関係を作り、職員から意見が出された時にはできる限り実施できるように配慮し、利用者にとってより良いサービスの提供に努めています。また、日々の散歩や外食などの外出や大きなイベントには家族も参加し、共に楽しんでもらっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	レクリエーションの時に書いた物をみんなが通る入口に張っている。	「しあわせはいつも自分の心が決める」と管理者が理念として決め、利用者も職員も笑顔になることがしあわせと考え、職員に伝え活動しています。理念が少しずつ浸透し、まず職員が笑うようになり明るくなってきたことが、利用者の笑顔につながっています。今後、更なる浸透を目指し、実践に繋げていきたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5/11の地域の大きなイベントのふれあい祭りに赴き交流を図ったり外食を続けたり新しいお店にも足を運んでる。	自治会に加入したり、地域の小学校の運動会の見学、近隣の特別養護老人ホームの祭りに参加しています。近隣の駅で開催される大きなイベントに参加しました。地域の方の訪問などの交流はまだ無い状況です。	ホームの行事に地域の方を招待したり体験学習の受け入れなど、地域の方がホームに来てもらえる機会を作り、交流を深められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントには参加をして地域の人々と会話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催しその都度、意見や要望などは聞き改善できることは迅速に行うようにする。	運営推進会議は2か月に1度開催し、法人の幹部、地域包括支援センター職員、訪問看護師、家族等の参加となっています。写真を使い普段の様子やケア方法の説明をし、運営状況や事故の報告を行い、参加者から意見をもらっています。利用者の運動についての意見が出され、体操が習慣となるなど、意見を運営に活かしています。	以前は自治会長や民生委員の参加がありましたが、現在は参加がない状況です。地域の方が参加できるよう原因を模索し、開催日時を検討するなどの取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険証の更新書類は郵送じゃなく訪問し研修にも参加している。	更新の手続き等の際には行政に訪問し、手続きをすると共に、事業所の状況を説明しています。分からないことはその都度電話などで役所へ確認し、また集団指導や研修に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を伝達研修をし理解した上で施錠に関しても話し合いをし解除の方向を向いている。	本社で行われる身体拘束をしないための研修に管理者が参加し、ホームにて職員に具体的にフィードバックしています。玄関は開錠できないかカンファレンスで検討しましたが開錠には至らず、外出したい利用者が出来る限り外出できるよう支援しています。言葉による拘束に繋がるような職員の言葉使いは、その都度注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けそれを伝達研修をして意識を高めている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	伝達研修をし意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時に説明をして納得してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は直ぐに改善できることは改善し時間がかかる時でも改善に努める。	家族の面会時に意見を聞き、出来ることは速やかに対応し、すぐには対応できないことも法人に確認した上で意見をサービスに反映しています。本社から年に1度家族へアンケートを取り、結果を受けて運営に活かしています。毎月、写真入りの便りと連絡帳を送り、ホームや利用者の状況を伝達しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも相談出来るように事務所じゃなくスタッフルームにおり相談しやすいようにしている。	管理者は、職員から意見が出された時には、基本的にも実施できるようにしています。月に1度フロア毎の会議で活発に話し合い、行事のアイデアなど出し合いながらより良いサービスに活かしています。個々の意見を言いやすいような雰囲気作りを心がけ、法人の人事考課時の面談なども利用して職員の意見を聴取しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度やほめカードを活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術の研修の活用やその都度の対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と連携をとってイベントに参加したりする。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで情報を収集しケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで情報を収集しケアに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントで情報を収集しケアに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを第一に考えケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昔の事などを聞き個別ケアにあてている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来られやすいようにしている。	以前と一緒に旅行に行った友達や、近隣に住んでいた人の訪問等を受けホームでゆっくり過ごしてもらっています。以前に勤務していた所に訪問したり、家族の協力のもと墓参りやだんじりに行っています。また、馴染みの百貨店や飲食店にも行けるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファなどを利用し落ち着いた空間を作っている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は面会など行き家族と今後を相談していた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位でケアしている。困難なケースでも本人本位でケアしている。	入居時には以前のケアマネジャーや家族から以前の仕事や趣味を聞き、また本人からも希望や意向聞いています。入居後は居室担当者やケアマネジャーを中心に、日々の関わりの中から思いをくみ取るよう心掛け、会議でも本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの過ごし方を中心にケアをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペースで過ごしてもらう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の要望を取り入れている。	利用者の思いやアセスメントを基に介護計画を作成しています。3か月ごとのモニタリングを基に評価を行い計画の変更等の必要性を検討し、変わりなければ6か月ごとに介護計画を見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、家族の意向や医師、訪問看護師等の意見を事前に聞き、サービス担当者会議を開催しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に落とし職員は勤務に入る前にチェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせてケアに取り組んでる。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ることは率先してしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診 月4回の歯科往診 月4回の訪問看護 希望があれば訪問マッサージ可能	入居前のかかりつけ医の継続も可能であることも説明していますが、現在の利用者はホームの協力医に変更しています。専門医への受診は家族が支援し、協力医の往診は月に2回あり診察の結果は便りで家族に報告しています。夜間などの緊急時には訪問看護師へ連絡し指示を受ける体制となっています。利用者の希望に応じて歯科往診や口腔衛生も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し主治医に相談し受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まめに面会に行き情報収集し早期退院を目指す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りケアはないが関係者との連携は行う。	入居時に指針に基づいて重度化の対応について説明しています。今まで看取りを支援した経験はありませんが、咀嚼や嚥下が難しくなるなどの重度化が見られた場合には、医師や家族とも相談しつつケアの方法や方針を検討しています。法人では看取りの研修があり、管理者が参加して職員にフィードバックするなど、重度化や看取りの対応の準備を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はしているが地域までは協力は築けていない。	年に2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しています。消防職員の参加もあり指導を受けながら、避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施しています。地域との協力体制への取り組みはまだなく、今後地域の方の訓練への参加に向けて声をかけたいと考えています。	課題とされている事業所の避難訓練への地域の方の参加や、地域での避難訓練などがあれば参加する等、地域との協力体制の構築に向けての取り組みを期待します。

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が意識をして声掛けをしている。	敬意を持ち利用者に関わることを基本としながら、親しみのある家族のような関係づくりを心がけています。法人でプライバシーや接遇の研修もあり、内容を職員で共有しています。言葉使いも含めた接し方で、気づきがあれば職員相互間で注意することもできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい所や場所があれば個別で居室担当が行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位に合わせて過ごしてもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は職員が選ぶのではなく選べる入居者には選択してもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いや盛り付け、配膳や下膳、食器拭きを出来るだけしている。	メニューとレシピ、食材は食品会社から届けられホームで調理し、状況によりメニューを変更しています。利用者も下拵え等の調理に参加しており、昼食時には職員も一緒に食べ、音楽やラジオをかけて楽しくできる雰囲気作りを工夫しています。鍋やパイキング等のイベント食も2か月1度程度設けたり、フロアごとに外食も楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手伝いや盛り付け・食器拭きをしてもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをし月4回の訪問歯科で職員も口腔ケア指導を受けている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時より数名、オムツからリハパンに変更 リハパンから布パンに変更している。	排泄のコントロールを意識して、個人ごとに記録し、排泄のリズムを把握しています。自立に向けて支援する中で、立てるようになり一人でトイレに行くことが出来るようになった利用者や、おむつから紙パンツへ変更した利用者もいます。会議ではその人に合ったケアができるよう検討を重ねています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤や座薬で排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回と決めているが体の状態や気持ちが乗らない入居者には毎日、声掛けしている。	基本的には週2回曜日を決めて入浴の支援を行い、その時の体調にも考慮したり、必要があればその都度入浴してもらっています。毎日や夕食後の時間等の希望があれば、検討していきたいと考えています。また入浴を嫌がる利用者には声掛けのタイミングを工夫して入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず各入居者に合わせたケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しその人に合った薬の使用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割りを作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別で外出したり食べたい物を食べに外出している。	普段の散歩は毎日実施し、近隣の公園、スーパー等に出かけています。外出を好まない利用者は無理をせずにベランダや庭で外気浴を楽しんでもらっています。花見や近隣のグループホームにも出かけることもあります。また個々で家族と共に外食に出掛けています。	

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に許可を得て少額のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節には菖蒲湯やトイレには芳香剤など設置している。	空気清浄器や加湿器を設置し、共用空間は毎日清掃し清潔に保たれています。フロアの飾りつけに季節感を出すように配慮し、観葉植物を配置し利用者も一緒に手入れをしています。ソファの位置も利用者の様子に合わせて決め、居場所や居心地に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを利用し落ち着く居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は出来るだけ今まで使っていたタンスや小物などを置くように努めている。	入居時に今まで使っていた馴染みの物、思い出の物を持参しています。カーテンやベット、棚、テレビ等を持参し、利用者や家族と相談しながら配置し、その人らしい居室となっています。写真や色紙、手紙などを貼るなど、居室は思い思いに飾られています。趣味の写経の道具を持って来られている利用者もいます。また、各居室に温・湿度計を設置して気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく出来ることは自分でしてもらうよう努めている。		